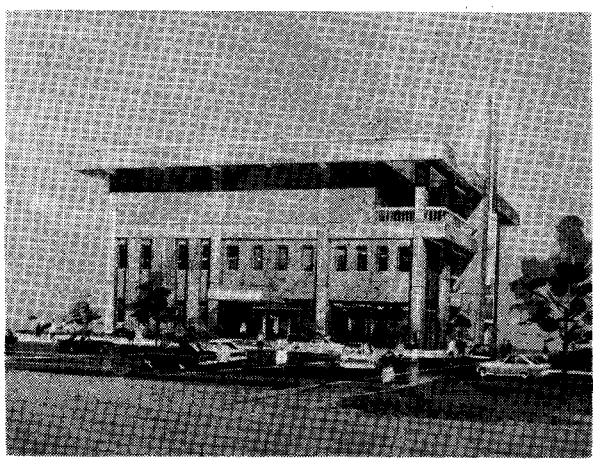
こすど公民館報
発行所 小須戸町公民館
発行人 間野良知
発行日 毎月15日
一部15円
印刷所 昭栄堂印刷所

生まれでる 社会教育の殿堂

位置は役場うらに 社会教育センター（公民館）本ぎまり



待望の公民館新築が、去る六月二十七日町議会で正式に決定いたしました。

二十五日町長より設置条例の制定について提案され、委員会で十分審議の上本会議に上程大多数の賛成で議決されたのであります。

（図）予定

○小須戸町社会教育センター設置条例

（設置）

（完成）

第一条　小須戸町住民のために、実際生活に即する教育・学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するため、社会教育施設を設置する。

（名称）

第二条　社会教育施設の名称は、小須戸町社会教育センターと称する。

（位置）

第三条　小須戸町社会教育センターの位置は、小須戸町大字小須戸字雁巻一二七番地におく。

以上が条例の主文であります。

長い間問題になっておりました位置も、町長の既定方針通りに役場うらと決定したわけであります。

規模についても、公民館運営審議委員会、社会教育委員会等の関係機関更に専門家の意見等を参酌して、鉄筋コンクリート三階建て、約四百坪を目途に、新潟の中央設計KKの手で最終設計が進んでおります。外観、内部ともデラックスな近代的形式で、図書室、視聴覚教室、料理実習室、学習室、大小会議室、大ホール等が備わり、全館冷暖房装置となっております。完成は大体来年の六月頃が予定されています。

ともあれ、何かもやもやした空気の中で進んできた新築問題がここではっきり決ったことは、町民の皆さんも、一応ほっとされたところと思います。

来るべき完成の日にそなえて、その運営上の問題等、積極的なご意見をお寄せ頂ければと願っております。（公民館長）

おめでとう 成人のみなさん

小須戸町の成人式は今年も八月十五日、午前九時より、役場三階議場で実施いたします。

今年該当するみなさんは、昭和二九年四月二日昭和三十年四月一日までに生まれたみなさんです

現在住民票により、調べておりますが、小須戸町に住民票がない人（例えば、大学生、市町村に勤務をしている人等）は、あらかじめ役場内教育委員会に申し出てください

成人式の案内状は八月五日ころまでには、送付いたしますので、案内のなかった人、住民票がない人は町教育委員会に申し出てください。

お知らせ

今年成人式をむかえるみなさんを対象にして成人記念文集の発行を計画いたしました。こぞって応募ください。

まとめて、小冊子を作る予定であり、成人式当日には、みなさんにくばりたいと思いますので、メ切期日を守ってください

募集要項

「成人式を迎えて」

「二十才になって私はこう思う」等の主題で。

※四〇〇字づめ原稿三枚

※メ切期日

八月一日町教育委員会成人式係あて。

※印刷の関係もありますので期日までに!!

夏休み中の生活指導

子どもたちにとって、楽しい夏休みが近づいてきました。一年生は、はじめての夏休み、六年生にとっては、六回目の夏休みになるわけです。

学校からはなれ長い休みになると、とかく生活も乱れがちになりますので十分ご注意をしていただきたいと思います。

特に、つぎのことをお願い致します。

一、健康な子ども。

体の悪いときは、何をしても、気持よく生活することができません。例えば、むし歯のある人は、この機会に治療しましょう。

二、学習する子ども。

一学期の復習をしたり夏休み帳、長期の休みでないと学習できないもの（継続的な理科の観察等）などをしっかりやりましょう。

三、規則正しい生活をする子ども。

学習、遊び、お手伝い等は、きめた時間にやりましょう。

四、交通事故のないよう十分注意しましょう。

毎日のように交通事故のニュースがありますが一人も交通事故にあわないように、特に、気をつけてください。

五、お手伝いをしましょう。それぞれの家庭学年にあったお手伝いをする以上の五つの事柄は、学校でも指導していますが長い夏休み中のことですから、家庭、地域の方々のご協力をお願い致します。

（小須戸小学校）

夏休み近ずく

水難防止生活指導

子どもの水死事故を防ごう

これから連日暑い日が続くと思いますが、子ども達にとって家まわりの池、防火用水、用水堀などは、かっこうの遊び場となります。

少し古い統計で申し訳ありませんが、昭和四七年度中に県内で、五才以下の幼児が四十九人も水死しており、交通事故の幼児の三十三人よりも、十六人も多くなっております。

水死の原因は

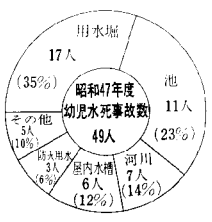
仕事をしながら子守をしていた。

子ども同志が水辺で遊んでいた。

などで、そのほとんどが親や子守りの人がチョット目を放したり、仕事に気をとられているスキにその付近で事故にあっております。

家のまわりの池防火用水、用水堀など危険なところには、サク、金網フタなどを完全にして下さい。

事故の場所は次表のとおりです。



（小須戸幹部派出所）

児童相談室のご利用を！

子どもの問題について困っている方は遠慮なくご相談においでください

家庭児童相談室は次のような子どもや、家庭の相談をするところです。

性格、習慣の相談。知能、言語の相談。学校、保育所ぎらい、非行についての相談。家庭関係や環境福祉の相談。心身障害の相談等です。

◎相談室の利用のしかた

(イ)社会福祉事務所の相談室を直接おたずねください。すぐ相談に応じます。

(ロ)来所できなければ電話や手紙で連絡ください すぐ相談に訪問します

(ハ)相談はすべて、無料で内容の秘密は固く守ります。

(ニ)家庭相談員と社会福祉主事が相談にあたります。

ー 相談室の場所 ー

新津市本町四丁目

社会福祉事務所内

家庭児童相談室

長寿大学見学旅行

長寿大学七月の全体学習としての新潟市内見学旅行は八日（月）九日（火）の二日間にわたり一〇五名の学生が参加して実施されました。

小須戸より山二つの新潟盲学校次に小金町の新潟ろう学校、此処で昼食をとらしていただき、午后は新潟地方裁判所の公判見学、終って旧税関の資料館を見学して帰るというコースでした。

盲学校では校長先生より学校の概況について説明をお聞きしそれから幼小中高の各教室を案内していただき勉強の様子を拝見いたしました。

視力の弱い生徒の読書、全盲の生徒の点字読書等その学習のなみなみならない努力に心を打たれました。

ろう学校でも校長先生より説明をお聞きし、各教室を案内していただいて勉強の様子を拝見いたしました。小須戸から行っておられる水沢よし子さんも中一の教室で元気に勉強しておられましたが発音等そのすばらしい成長ぶりに感激いたしました。ろう学校では昼食のお茶やその他あたたかいお心のご接待をいただき感謝の心でいっぱいでした。

裁判所では二日目の一部の方は民事裁判にまわっていただきましたが全員静粛、真けんに最後まで傍聴されました。

世の中には不幸な人々もたくさんおられ、しかもその不幸を克服して明るい人生を築きあげようと努力しておられます。梅雨空の中私達はそういう人々の幸福を心からお祈りしながら家路につきました。思い出多い見学旅行のバスにゆられながら。

長寿大学案内

七月後半より八月前半

七月一五日書道クラブ

一六日囲碁将棋〃

一七日民謡舞踊〃

一八日園芸〃

一九日運営委員会

二三日家庭科クラブ

八月 一日囲碁将棋〃

五日書道クラブ

一〇日家庭科〃

一五日囲碁将棋〃

一八日書道クラブ

二八日家庭科クラブ

山の彼方に虹がかゝる雨に濡れた私の思い出
雲の彼方にあなたは消える朝日の中に消える思い出
はばたく野鳩を私は仰ぐ小雨に濡れた私は陽紫花

紫陽花

しらい あきら

ユキノシタ科の落葉かんぼく

七月の誕生花

花ことば

※清艶、愛情

続小須戸風土記

潟の変遷 (一)

柏大治

北蒲原は昔、大地主の多いので知られていますが、明治四十年の記録によりますと、地価一万円以上が北蒲原郡だけで九十四人いたといわれています。なかでも筆頭は白瀬長衛で、三十六万七千七百円、市島徳次郎が三十三万三千三百円、斎藤彦太郎の二十八万三千三百円、二宮孝順が二十六万七千三百円、佐藤光興の二十五万円などと大地主様がそろっています。

小須戸町の田上、田巻家の小作が昭和七年頃田三段（三〇アール）百円でなければ買われないと、小作争議をおこしたくらいだから、明治四十年の地価が想像できましょうこれらの大地主ができたことは沼や潟を開発した人達が多くいたからといわれています。

この故か昔から開墾精神が、「おおせい」で、小須戸郷の潟（カタ）を開発するなどと幕府へ願いでて困ったことがあります

記

寛政十二年申亥年（一八〇〇年）

竜玄潟願人附

鎌倉潟、若宮潟、長戸呂潟、頭無潟

村々ニテ唱来候由

申ウル四月八日

乍恐以書付奉願上候

御勘定所付支配所

蒲原郡今泉村庄屋

願人 吉兵衛

三潟町数合百五拾町歩

溝口相模守知行所

新開願

同郡水原村百姓

宗右工門

の吉兵衛と宗右工門が開拓したいと願いでました。驚いたのは小須戸郷の農民です。

十三枚ばかりの書類になっていますが、解文してみますと、その理由は新発田御領分の内、小須戸郷に、作付もせず、出水のたびに、埃、砂押し、荒れ放題にしてある百五十町余のいろ〳〵な潟がありますから。空地にしておくことは恐れ入る次第でありますというても、小須戸郷村々の人達が、なんだかんだと、らちがあかぬそうですが、私達に開拓をおまかせ下されば、潟の水を抜き、用水掛引江筋等を普請して追々田畑にして御高に加えれば御上も大変、御益徳になると思います。

（つづく）

青年の山と出城開き!!

小須戸町勤労青年学級では、自治会を中心にして、自然としたしむために山小屋を作り、またハイキングコースを作って青少年のみなさんとともに健康で楽しい学習を展開することになりました。

青年学級山の会では、かねてより建築を続けていました、山小屋の完成と合せて青年の山開きを六月三十日に挙行。

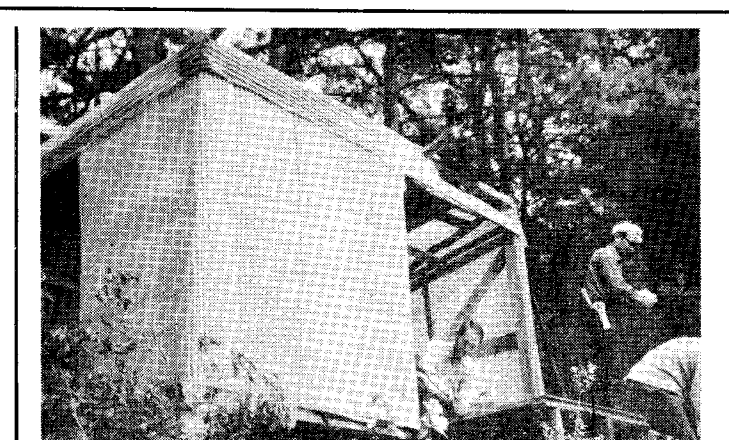
この度の山小屋建築は同会における第二の計画であり、第三のハイキングコース計画、第四のオリエンテーリング計画、および学級の教室といった物で、多様性を持った拠点として造られたものであり、私達学級生は第一計画のシイ茸の原木作り及び菌打ちを終り第三計画のハイキングコース開設に向い前進しています。このハイキングコースは青年の山より、北の谷（天ヶ沢鎌倉より護摩堂林道菅の沢線中間部より菅の沢に向って右の峯）の右側の峯より頂上に向って登るコースです。この峯は、護摩堂（田上より）登山道にて左側に見える峯がコースになる予定です。

この新しいハイキングコースは護摩堂真西バンガローのところに付け、大自然の中をトボトボと歩いて登るコースは自動車やバイクの入れない雑木林ホウの木、ウルシ、ケヤキ、ツタ等を切りひらいてのコースです。一人で歩いていると、なんとなしに、さびしさを感じるコースです。又このコースで、秋には オリエンテーリングを計画しています。

こうして私達は平日水曜日夜は一般学習や体育教程を行ない、日曜日には青年の山へ入って作業を行いながら友達を増し多くの人達と語り合いながら学級や町政に関することから個々の問題点を出し合っての学習に至るまで立案し計画し実行して現在に至っています。

私達は今、何を求めて生きて行かなければならないのか、よく問われる課題の一つであるが、私達の仲間においては、汗をかき、笑を持ち、語り合える友達こそ生がいではなかろうか。この中に青春を見い出して、自分自身に課題を課し活動を進んでする姿は何んともいえない楽しさがあり、又苦労もある。この苦労も顔を合すことにより、笑いとなり活動の活力源となってくる。

ぜひ貴方も私達の仲間に入りませんか。つぎつぎと新らしいアイデアで楽しい学習や活動を生みだして、実行しています。



活動の拠点　〝青年の山小屋〟

なぎさ

寺お講展覧会に思う

今年も六月二十日から二十三日まで、公民館で子どもたちの作品展覧会が開かれました。

今回は特に長寿大学も加わって花を添えておりました。

主催は美術同人会、町教育振興会となっておりますが、遠く文化協会時代から二十余年にわたって、一回も休むことなく続けてこられた関係者の皆さんに心から敬意を表したいと思います。

ところでここ数年、中学生の作品が出展されないのは・体どうしたことなのでしょう。せっかく見に行っても、何かぽつんと一つ穴があいているような淋しさを感じるのは私だけではないと思います。

今の世相から考えて、情操教育の重要性が高く叫ばれております。その中心となるのは美術ではないかと思います。

各学校とも美術教育に力をそそいでおられることは本当にうれしいことであります。しかしそうした中から生れた子ども達の作品を、広く地域の人たちに公開し、鑑賞をしていただく機会が余りにも少いのではないでしょうか。年一回盛大に開かれる文化祭だけでは本当にかわいそうです。

それだからといって、年四、五回も展覧会をもつことは、指導の先生方にも学ぶ子ども達にも負担が重過ぎて、言うべくして不可能なことであります。そこで私の申し上げたいのはせめてこの寺お講展覧会の規模や内容を今少し大きくできないかということであります。

幼稚園も、小中学校も長寿大学も一体となって、名実ともに充実した展覧会にしていただけたらということであります。もちろん公民館や関係機関が進んで費用面の援助をし、又全町民に対してアピール宣伝をすることも大切であります。そこへ一枚「美術花咲く「花とみどりの小須戸町」小須戸町」を加えて、ほんとうに心ゆたかな町民性をつくりあげてほしいものであります。

（一中学校父兄）

投稿をお待ちします

「なぎさ」はみなさんの自由意見の欄であります どんどんご投稿をおよせください。

（編集部）

＝私の趣味＝ その四

切手をあつめて五十四年

二番町　小見雄司さん

九才のときから切手にとりつかれたという小見さん、今年六二才、浜屋のご主人でいられる。

「いやー。 ひっそりと自分ひとりの楽しみにやっていることで 今更人様に申しあげるようなもんじゃないんです」

といささか照れくさそうなご様子でぽつぽつと語られた。

数えれば五十四年まい大正九年 第一回国勢調査記念切手をお父さんから一枚いただいたのがきっかけだという。子ども心にもよほど嬉しくもあり珍らしくあったのであろう。以来おこずかいをためておいては、記念切手の発行されるたびに、郵便局へ走り、一枚ずつ求められた。そしてそれがいつとはなしに本格的な蒐集へとかわってきた。

もちろん最近のような切手ブームなどという時代じゃなかったので、同じ趣味の友だちがおったわけでもなし、ほんのじぶんひとりだけのささやかな宝物として取りだしては眺めて楽しんでおられた。終戦後切手ブームのはじまる頃、小須戸局の郵便切手趣味の会の会長を依嘱された。

「名ばかりの会長でしてね。特にかわったしごとをしたわけでもなしただ会員には優先的に記念切手をわけていただけるという集まりなんですよーとおっしゃる。

現在アルバム五冊の外未整理のものも加えると種類、枚数はちょっと見当がつかないという。

それも日本の記念切手だけで、外国のものや古切手は一枚もふくまれておらない。

「かたくな性分なんでしょうね。人から珍らしいものをゆずりうけるなどということがきらいなんです。自分の手で直接求めたものでないと面白くないんです。しいて言えばそれが私の唯一の誇りでしょう」と笑われる。

家族の方々もいつとはなしに同化されて、家ぐるみ切手ひとすじの趣味という幸せな、温い家庭である。「手軽で大した金もかからず、売る気はなくとも相場の値上りの楽しみもありますしね、切手あつめなどは面白いのじゃないですか。まあ私の場合はそれとは全く別に、記念切手だけのこのコレクションを通して国の歴史の流れをふりかえることができる喜びですね。私の一生にわたる世のうつりかわりをこれに託していると言ってもよいでしょう。それにしても昔はどんな切手にも国を象徴する菊の御紋がついていました。戦後それがなくなったのはほんとにさびしいことです。時代と言えばそれまでですが」と人なっこい顔をほころばされた。

信念の蒐集家小見さんのお幸せを心からお祈り申しあげたい。

新しい公衆電話誕生

横町農業協同組合前に新型公衆電話が設置されます。皆さんご利用ください。

利用方法はつぎのとおり

一、十円玉は六枚まではいります。

二、通話中「ピーッ」という音がしたら、すぐ追加の十円玉を入れてください。十円玉一枚でおかけの時は、相手が出た時にこの音が入ります。

三、受話器をおくと残りの十円玉は、返却口にもどります。

四、番号調べ（一〇四番一〇五番）故障係（一一三番）は、十円を入れてダイヤルしてください。（返却します）

五、申込通話（一〇〇番一〇六番）はかけられません。赤電話をご利用ください。

（小須戸電報電話局）

分館だより

新保分館

○新保竜玄民踊クラブ誕生

かねてから分館内のお母さん達が相寄って、民踊の講習会や練習会が開かれておりましたが、機が熟して今回クラブとして新発足しました。

会員は五六名、役員は次の通りであります。

会長　簑和キイ
副会長兼会計　高山タイ
会計　石本スイ子
幹事　滝沢幸子
　　　川瀬ヨシ子
　　　丸山フサ
　　　高山トメ

健康と美容、その上よい仲間づくりを目ざしてママさんバレーと共に今後の活躍が期待されます

心はいつも健康に

精神衛生相談室

心の健康を保つための相談会を開きます。

最近、おとなにも子どもにも心の病気が増えていますす早く適当な手当をすれば必らず治りますが放っておくと治りにくくなります。次のような人はぜひおいでください。

おとなの場合

(1)考えこんだりひとり言を言ったり、理由がないのに笑う。
(2)常にイライラ怒りっぽく乱暴する。
(3)気分が沈み仕事に意欲がなく、不安で死にたくなる。
(4)毎日ねむれなく、アルコールが入ると乱暴する。

子どもの場合

(1)登校拒否。
(2)無熱時のひきつけ。
(3)三才すぎてもしゃべれない。
(4)四才すぎても寝小便する。

●相談日　七月二十九日月曜日　午後一時～二時半
●場所　老人憩いの家
●担当者　新津精神病院長　保健所相談員　役場保健婦
●相談料　無料

こどもクイズ

さあ！考えて？

〃つぎの問題の□の中に答えを書いて公民館へ〃答え・住所・氏名・学年クラスをはっきり書いてハガキで送って下さい。正解者の中から五名の方に賞品をお贈りします。

一問　夏休みの日数は全部で三十□日です
二問　新しくぬられた小須戸橋の色は□です
三問　七月二十三日は土用の□□の日です

前号の正解は
一問　三、二問、七
三問　十、でした。

抽選の結果、次の方々へ賞品をお贈りしました。

天ヶ沢　家塚圭子　六年
〃　阿達かおる　二年
東町　しみずまゆみ　一年
鎌倉　渡辺ひろき　二年
矢代田　轡田勝之　五年

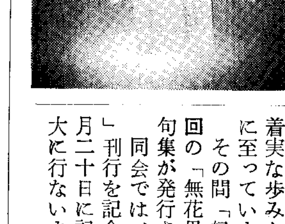
句集〝立夏〟刊行記念句会

小須戸町俳句同好会

手術日のきまりし妻の夏羽織　蒼石
庖丁に錆すぐ浮きて梅雨に入る　樫労
肩に置く鍬の重たく夕蛙　芳人
南風強し少年の鳩まだ帰らず　越楼
更けて書く帳簿の〆や夕蛙　静花
山椒も庭木のひとつその芽摘む　幸司
囀や庭木もわれも年古りてし　喜作
年毎にさび増す句碑や苔の花　碧水
校庭の雨明るくて桐の花　茉莉花
しけ雲の残る朝市初燕　影三
夕郭公遠山波の茜いろ　彩虹
郭公のふと吃りたる午さがり　虚秋
病院を出て夏大根を買いにけり　ひさ
暑きこと話しおるまゝに寝入りけり　太浪
梅やると青梅の下に約しけり　四山
植田より夕日をはねて野鴨たつ　香月
句集成る初夏の一日を盛大に　秋蘭
新樹光老いの集いの学習日　良遊

〝立夏〟刊行

俳句同好会が第十四回目の句集を作成



俳句同好会（会長成田高常氏）は、昭和二十二年に結成され、以来二十七年間、会員相互の親睦を深めつゝ地味ながらも着実な歩みを進め、今日に至っています。

その間「緑園」から前回の「無花果」まで十三句集が発行されています

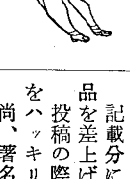
同会では、句集「立夏」刊行を記念して去る六月二十日に記念句会を盛大に行ないました。

夏は来ぬ

出雲町　我妻清作

信濃川の水面飽かずに見つめおり
心に戻り来る安らぎに

編集部より



館報編集部では、皆さんの投稿をお待ちしております。

ご意見、ご希望等、又詩、短歌、俳句、なんでも結構です。

記載分については記念品を差上げます、

投稿の際は、住所氏名をハッキリ書いて下さい

尚、署名希望の場合はその旨お書き添え下さい

（次号にあなたの名前を載せてみませんか？）